



先年、私の学園の教員が、残念ながら、がんで亡くなった。ちょうど三十九歳の誕生日であった。

彼女は数年前に乳がんにかかり、闘病しながら懸命に仕事を続けてきた。私も彼女の受けた苦しみを、

彼女が待機して授業が始まり、闘病体験を話した後、かつらを外し、髪の毛を抜いた。彼女がこの授業にかけた気持ちを感じた。そして、これが最後の授業となった。

最後の授業



草野 義輔

勤務時間を調整しながら、可能なことには対処したつもりである。私にとっても、経営者として一つの試練だったように思う。

懸命の闘病にもかかわらず、がんは転移していった。放射線治療のため、髪が抜け落ちていった。女性としては極めてつら

いことだったと思う。さらに病状は進行し、車いすに頼らざるを得なくなった。

春、新学期になったころ、もう教壇に立つのは困難になっていたが、主治医の協力を得て特別の授業をすることになった。

彼女は看護師でもあったので、自らの体験が後輩の貴重な教材になれば、という強い思いがあったのだろう。

医師が待機して授業が始まり、闘病体験を話した後、かつらを外し、髪の毛を抜いた。彼女がこの授業にかけた気持ちを感じた。そして、これが最後の授業となった。

いま学園では、彼女が寄贈してくれた実習機器を、後輩たちが大切に使っている。

(昭和学園高校理事長・日田市)